

表示はかならずつけよう

包装容器入り食品の実態調査結果 市内188の小売店と1万2千点を調べる



示名と中身の違いなどの問題がでてきています。また違反のあった小売店（製造年月日のなかったものや先づけ表示のもの）に対しては、県から文書指導および改善の勧告などをうけました。

く」との表示はしてあるものの、日付表示がなかったりして問題が残りました。

このほか認証マークの普及率については、調査4品目1万2,244点中8,513点に表示され全体の69.5%の普及となっています。この認証制度は、県が去る昭和48年8月28日から「地域食品認証制度」としてスタートしているもので、対象品目は豆腐油あげ、納豆、こんにゃく、かまぼこの5種類です。これらはいずれも保存性が低かったり、流通範囲が狭いことなどの理由からJAS（日本農林規格）制度からはずされています。

いづれにしても、今回の調査は前回にくらべ全体的には、表示率や普及率はダウンしていますが、前回は店頭での見取り調査だったことと、調査員が比較的調査しやすい大型店に集中したため、今回の調査よりも表示率は高かったことがわかりました。

富士市消費生活モニターは、1月19、20日の両日、包装容器入り食品4種類について市内における小売状況の実態調査を行いました。

今回の調査の対象となった食品は包装容器にいれられた「豆腐」「油あげ」「納豆」「こんにゃく」の4種類です。この調査結果は、モニターが市内の小売店ののべ188店舗が調査の対象となり、4種類1万2,244点が調査されました。この調査でわかったことは、製造年月日の先づけ問題（豆腐2、油あげ1、納豆1）や包装表

製造年月日の表示についてみますと、前回11月の調査にくらべ4種類とも表示率は低く、とくに「こんにゃく」については前回91.6%だったものが69.7%と実に21.9%も少なくなっていることが目立っています。

また、おいしく食べられる期間の表示については、納豆表示が前回の55.7%にくらべ71.2%と15.5%の増となっていたもののほかは、3種類とも少なくなっています。しかし、納豆表示も「1週間以内」とか「お早

2月の当直医



休日当直医院は、富士市医師会が急病者のために定めたものです。ところが、最近、かかりつけの医院がやすみなのでみて

くださいと、当直医院に来る人が多くなりました。特に医療センターに多く急病者の診察に支障をきたしていますので、当直医院は急病のときにだけご利用ください。

■2月11日

外科 中央病院（本市場 61-8800）
吉原病院（南町 52-0780）
産婦人科 池田医院（石坂 21-2228）

■2月12日

外科 中央病院（本市場 61-8800）
渡辺病院（錦町1 51-3751）
産婦人科 鈴木医院（今泉1 52-1712）

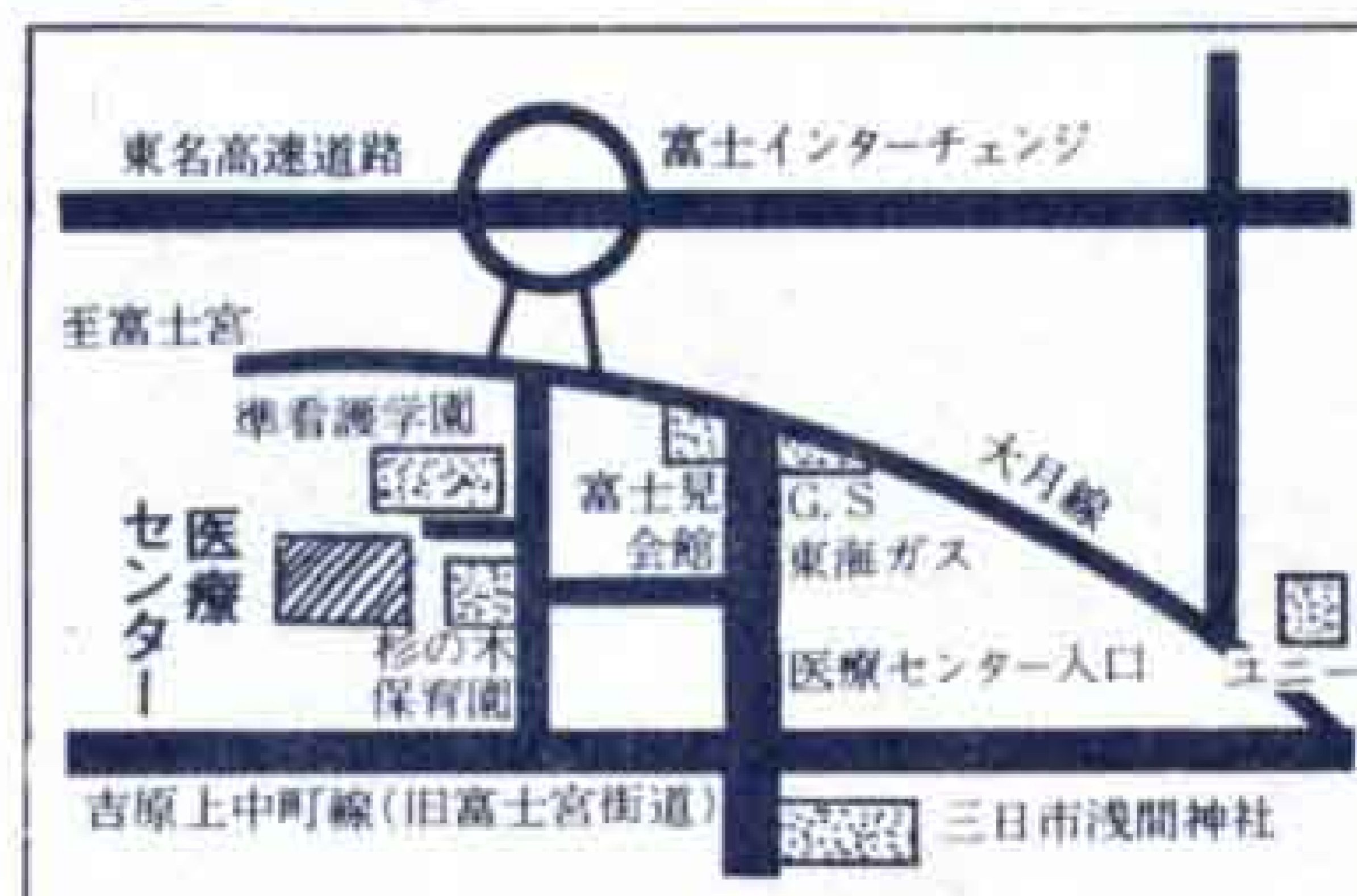
■2月19日

外科 藤井医院（松岡 61-7811）
米山病院（吉原4 52-3060）
産婦人科 中央病院（本市場61-8800）

■2月26日

外科 松本医院（久沢 71-2570）
芦川病院（中央町2 52-2480）
産婦人科 吉見医院（吉原4 52-2399）

※内科、小児科は富士医師会が「医療センター」で行っています。診療時間は午前9時から午後5時までです。ただし受付時間は4時30分までです。医療センターでは、日曜祭日以外は行っていません。



医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2（長者町）」電話は52-3104です。